midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

１１月号の１枚：倒木処理をするForesToClassのメンバー

矢作川訪問記　「疎通千里　利澤萬世」

良水千里を流せば、得る恩恵は萬世に至る

予て、酒井秀夫先生から矢作川上下流域の治山治水状況を見て来るようにと言われていた。

9月末、新宿5：55分発のバス。中央高速、飯田ICを経て2社の地方路線バスを乗り継ぎ、矢作川源流の根羽村に着いた。長野県最南部、岐阜県、愛知県に接する深山の地。午後は森に詳しい人の案内で地域の森を見せてもらった。殆どが自然林であった。岩間から噴き出る清水は聖なる味がした。信玄火葬の場、1800年縄文杉の神社に参拝した。

翌、9時30分、約束の根羽村、大久保村長を訪ねた。村長は資料を揃えて矢作川流域の治山治水の苦難の歴史を語って下さった。根羽村に発し、現在の三県にまたがり三河湾まで流れ注ぐこの川の一帯は、過去には不毛の原野であった。ここに安城の都筑弥厚（1808年文化5年）は30kmに及ぶ水堀を作り、旱魃の時はこの水堀で凌いだ。効果は大であった。

明治政府は灌漑水堀の効果に気付き、明治15年「明治用水連合水利土労会社」を設立。

今、愛知県の製品生産高は日本で第1位の40.2兆円、第2位神奈川県17.5兆円の2.3倍。

トヨタの売上があるからという人もいるが、都筑弥厚のような人々の、地域の気質が豊田佐吉、のちのトヨタを作ったのだと考える。

「共生共助、農耕漁労民族、和の国日本」の力量が今、試されている。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動 2016.11

11月 6日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上
知足の森/若者の森づくり
いずれも弁当持参。参加費：４００円
11月20日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

10月2日（第一日曜日）

創業・新事業進出フォーラムに出展で使う、「桐のまな板」を間に合わせる為には、制作は今日をおいて無いと懇願の結果、本日は小原ではなく嵐山で活動することになった。

小原へは、16:00から開催予定のマーシュさん宅での本格ピザパーティーで行くことになる。

川田、角田、小林の三名で嵐山モマ工房で、昨年間伐し板材にして保管しておいた桐材をチェンソーで切断した。20㎝～30㎝くらいの真四角に近い変てこなまな板であるが、主婦にとってこの小さなのが欲しいのだとの女性の意見に押し切られ決めた。モマ工房にある、ジェネレーターのエンジンを苦戦の末起動し、サンダーで表面や角を取り入念に仕上げたが平面にほど遠く商品性に欠けるため、後日工務店で超仕上げカンナを借りて仕上げることとした。本日20数枚のまな板をわき目も振らず完成。

後日、工務店に超仕上げカンナを借り、素晴らしいまな板のできあがりに素直に喜んだ。

昼すぎ小原の畑に行きジャガイモとヤーコンを収穫、時間にマーシュさんの家の庭に行くと既に大勢の方が集まっていました。マーシュさんのお父さんの手作りと言う立派なピザ窯の説明を一通り聞くと、川田さんの挨拶、ForesTo Classの二藤さんの紹介を兼ねた挨拶があり、家主マーシュさん、奥さん、お子さんの挨拶で始まった。長福時住職の御母さんや小林さん永井さん石井さんなど近所の人が30名強、それに地球環境部の子供たちと緑のダムを合わせ50名くらいの人で賑わった。

我々は、小林さんの裏庭に陣取り鉄壁の飲み体制で、元役場の石井さんからスギの間に無数に成長した竹藪の処理をしてほしいと頼まれたので、早速、次の週から始めることを約束した。このように地域の方と膝をよせて語らう中から、お互いの協力関係が生まれる関係が、古くから日本の良き生活習慣として根付いていたことを思い出させてくれる素敵な体験が小原で出来ました。この様に、森林整備班は山での楽しみ方を演出します。

小林　照夫（本会、理事）

[定例活動]知足の森

10月2日（第一日曜日）

今月の知足の森では懸案だった倒木２本の処理を行いました。直径40センチ近い杉が先日の台風で倒され、倒れながらもう一本の同じような杉を倒し、さらに数本の小径木を倒すという状況でした。小さいものについては中高生で処理をしておいたのですが、大きい２本は沢にかかってしまい、切っただけではそのまま沢に落ちてしまい、さらに切り株自体もどうなるか分からない状況だったので、ここはフォレストクラスの二藤さん、斎藤夫妻の力を借りて高校生と作業してきました。

どこから作業するのか勉強させてもらおうと見ていたところ、まずフォレストクラスのメンバーが手をつけたのは切り株でした。切って沢に落ちると危険だから、とロープを滑車に通しチルホールで固定して置きながら少しずつチェーンソーで短くしていきます。我々が作業すれば切りながら丸太が下に落ちながら刃を挟んでしまい、動かなくなり終了してしまいそう場面でも上下の切り込み方が絶妙でチェーンソーのバーが挟まることなく切っていく姿は見事としかいいようがありません。2台のうち１台しかチェーンソーのエンジンがかからなかったため、玉切りするチームと切った丸太を積むチームと分かれ無事に処理を終えました。それにしても玉切りした材が太く真っ直ぐで、このまま林内で朽ちていくのはもったいなすぎるので、なんとか活用の方法を考えたいと思います。

宮村　連理（本会、副代表理事）

[定例活動]相模湖嵐山の森

10月16日（第三日曜日）

暑かった夏が過ぎて、涼しくなりましたね。森の様子も変わってきたように感じます。体調を崩さないように、気を付けましょう。準備運動は大きな声でお願いいたします。報告の編集はForest Nova☆五味が担当いたします。

まずはForest Nova☆活動報告。午前中は経路整備。森林整備班の方たちに助けていただきました。ありがとうございます。参加者は三人。古くなった木を取り換え、杭を打つ。杭を打つのにコツがいり、慣れるまで苦労しました。午後は三人のうち二人が早退したため、残ったメンバーは地球環境部の手伝いをさせて頂きました。架り木に苦労しました。

地球環境部は中高生＋宮村先生の１０名。先月集材した丸太の皮むきと並行して間伐。１本目はなんとか倒したものの、２本目に試練が。倒れ始めるまでは高校生の牧野くんがあっという間に。さすが、と思った瞬間に掛かり木に。これが難儀。お昼を挟んで、森林整備班から３名の助っ人を入れてのあれやこれやと引っ張ったが倒れない。仕方ないのでやっと稼働しはじめた地球環境部チェーンソーで宮村（先生）が慎重に慎重に短くしていく。処理しきったときには大きな歓声が。が、まだ終わらないこの日の災難。まさかの３本目も掛かってしまうという。これはさすがに来月にすることに。（編集部注：１１月の小原の森定例活動の際に森林整備班で処理していただきました。ありがとうございました）まだまだ修行が足りない中高生、気持ちを新たに来月がんばる、とのこと。

森林整備班。午前：Forest Nova☆からB地区の経路整備の手伝いを依頼され,B地区の入り口から合流点までの間の壊れた階段の10箇所位を雁行階段で修理指導行った。

午後：地球環境部から架り木処理の協力要請があり玉切りとロープで苦戦の下、処理できた(90分)。15:00より仁藤君・斎藤君両プロによるチェーンソー講習会が開催ライセンス所持者のみの聴講だったが,教習では習わない専門職の技術はチェーンソーの四つの安全装備など,目からウロコの新鮮で納得のいく講習内容でとても役にたった。意識向上のため®所有者以外の会員にも講習を行う必要性を感じた。

緑のダムの個々の技術が向上して、地域からの期待や依頼も増えている、小原地区での竹林整備(石井氏)は我々が個人的に請負っているが、緑のダム活動の中でも報告されている。地域との融合連携は将にNPO活動の根幹であり望むところである、更に今後のForestClassの専門性を加えるとどこまでが緑のダム活動なのか？一方、狭小化する嵐山の整備活動は、鈴木氏所有の林部作業をどの様に進めるのか。緑のダム会員の安全面や初心者への対応を考えると拡大だけが成長ではない。個人的にはよりプロを目指すことが望みだが,森林整備を担う立場で,初心で話した様に楽しめる林業活動を構築したいとも思っている。NPO活動としてどのように取組むのかをこの際しっかりと討議しておく時期かと思う。又、サプライチェーン構想はNPO緑のダムの思想でありこれも進んでいるとのことで喜ばしいことです。皆さんが感じておられるように,もっと足元を見る必要もあろうかと思います。細分化によるNPO緑のダムの「強み」を見出し沢山の方に入会される団体にむけた次の一歩を考えたい。（報告：小林）

木工班報告。８月、９月と雨で作業が出来なかったので、３か月ぶりの木工作業であった。第３、第４柱の未加工部分を仕上げて、それぞれの柱と梁とのホゾを地上で仮組し、ホゾの確認した。建て方は、まず２本の柱を各々土台のコンクリート枠の穴に建て込み、梁は脚立を使い持ち上げ、両端のホゾを柱に合わせてから、掛矢で叩き組み立て、支柱で養生した。柱は全部で６本必要で、１１月からは中央の柱２本を立てた後、屋根制作に取り掛かる予定である。（報告：川田）

生命の森宣言東京活動報告。A地区でトチノキの刈り出しを行う。10月の山は秋が見えはじめます。日向のトチノキはまだ夏の葉ですが、スギ林の樹下に植栽したトチノキは葉を黄色に変えていました。その姿に誘われて、今月は、トチノキと競合している灌木を除伐し、トチノキを刈り出しました。参加者は、「こんなにトチノキが隠れていた。」と感嘆していました。（報告：菅原）

花畑班活動報告。10月16日の活動は秋晴れの中、石原さん、薄井さん、私の男3人で行った。メンバー中、紅1点の瀧澤さんは残念ながらお休み。9月は雨でかどやでの学習会だったため、2か月振りの活動。やはり屋外の活動は気持ちがいい。球根花壇とバラ園の雑草とりからスタート。午後は通り沿いのレッドロビン、ウバメガシ他の生け垣の刈り込みとバラの剪定。枯れそうなトネリコの木を「森の富植土」という堆肥で手当て。北側斜面の畑に植えたヤ―コンの周りの草取り等を行い終了。とてもガッカリしたのは唯一の楽しみにしていた柿が全て根こそぎなくなっていて、美味しい柿の収穫ができなかった事であった。（報告：丸茂）

以上が定例の報告です。

五味　輝史（Forest Nova）

[報告１]
相模湖・若者の森づくりから
～ForesTo Class

今回も引き続き小原地区、萩山の間伐を行わせてもらいました。作業前に比べ段々と風景も変わり、大分すっきりしてきましたので、全体の作業が終了した後はもっと良くなるんだろうなと仕上がり具合が楽しみになってきました。

活動終了後はチェンソーの取扱いに関する講習会を依頼されていましたので、力不足ながら林業を仕事にさせてもらっている私と齋藤が講師をさせて頂きました。まず最近、緑のダムでもチェンソーを使用する頻度が増え、またその中で故障も多くなってきているという事で、チェンソーの始動前点検、始動方法、使用後のメンテナス方法について確認しました。まずここが原因でエンジンや機械そのもののトラブルに繋がる事が多いので、普段、私達が気を付けているポイントや今までの失敗例など踏まえながらお話をさせてもらいましたが、皆さんに普通の講習会では聞けなかった事が聞けて良かったなどお褒めの言葉をもらう事ができ、今まで色々と仕事をする中で怒られ、失敗してきて良かったなと嬉しく思ったひと時でした(笑)。自分たちもまだまだ勉強中の身ですが、今後、少しでも多くの方達のお力になれるよう頑張っていこうと思います。

二藤　政毅（ForesTo Class）

[報告２]
相模湖・若者の森づくりから
～Forest Nova

10月2日日曜日、夕方から夜にかけて、緑のダム北相模とフォレストノバに加え、首都大学東京環境サークルnature（なちゅーる）から私も新たに参加させていただき、地域の方々とのピザパーティーが小原で行われました。

皆様のとても気さくな人柄と小原の豊かな自然が相まって、地域の皆様の御協力で実現した手作りピザをより一層美味しくいただくことができました。

美味しく手の込んだかぼちゃスープを提供してくださった方やとれたてのお野菜を提供してくださった方、ジュースやお酒を運んできてくださった方もおりましたし、御自宅のピザ窯と御庭を提供してくださった方もおりました。ピザ窯を提供してくださった御主人は、始終ほとんど休まずにピザを焼いてくださり、そのおかげで皆お腹一杯美味しいピザを堪能できました。

また、とても小さなお子様から幅広い年齢の方々が集まっているにも関わらず、年齢関係なく和気あいあいとした雰囲気で、なおかつ参加する方々がそれぞれ積極的に皆で楽しもうとする姿勢が伝わり、とてもあたたかな会になりました。

私事ではありますが、今回初参加でこの会を楽しめたのも、料理の美味しさは勿論、皆さまのお人柄あってのことだと思います。皆

様、本当にありがとうございました。

角掛　夏菜
（首都大学東京１年、東京環境サークル nature）

[報告３]
相模湖・若者の森づくりから
～地球環境部

地球環境部では、10月22日東京都市大学「東京都市大学第４回中高生環境社会活動グループ実践賞」の最優秀賞、環境コミュニケーション賞を受賞し、その授賞式に、23日小金井環境フォーラムとイベントに参加してきました。

表彰式には三鷹の中学生が初めての大舞台で、映像に合わせて１０分間の活動報告をしました。練習はしてきたつもりでしたが、やはり場数というものもあり、緊張度MAXでの発表でしたが、会場の学生を含めて100名近い会場で立派に活動を報告をしていました。緑のダム北相模としてのエントリでしたが、これまでの活動を通して、複数の中学校、高校が参加していることが高く評価されました。

[連載]

緑のダム、リレーエッセイ

「楽しく、休まず、ボチボチな人々」

「農耕をはじめた狩猟採集民
― サラワク州のプナン人コミュニティ訪問記 ―」（前編）

この9月、ゼミの学生たちと、ボルネオ島のマレーシア領サラワクに狩猟採集の民、プナン人のコミュニティを訪ねるツアーを行なった。訪問した三つの集落はいずれも州東部バラム河上流域にあり、サラワク州では州都のクチンに次ぐ二番目の都市、ミリから車で7～8時間を要するほどの山間部に位置している。うち二つ集落は、日本の建材市場に流入する合板原料の調達地調査でこれまでに足を踏み入れたことがあった。学生ツアーでは、狩猟採集民の食資源の変容について試行的な参与観察をすることで、《開発》と《伝統》がせめぎあう現場に立ち会いたいというテーマを掲げていた。以下、最初の二つのプナン人コミュニティについて紹介する。

最初に訪問したS村は60年ほど前に定住を選んだプナン人たちで、移動型の焼畑耕作と狩猟や漁労などを生業としている。滞在二日目、朝の6時にたたき起こされて、村から徒歩で一時間ほどかけてセランゴー河の対岸にある狩猟場に向かった。同行のハンターのうち、一人は村長の長男、もう一人はプナン人狩猟家たちにとってグル（師匠）と呼ばれているケニャ人である。彼らにとっては日課の朝の散歩といったところだろうが、すでに中年の佳境を迎えた自分にとっては必死の行軍ともいえる辛さである。狩猟場の森に入って二時間ほど経っただろうか、やっと帰途につけるのではと内心、期待しかけた矢先、一頭の狩猟犬が突然、数十m先で吠え声を挙げる。途端に二名の狩人が脱兎のごとく、急峻な獣道を疾走しはじめる。犬に追い立てられた獲物は迷走しているのだろうか、二人も四方八方に駆けずり回っているようだ。森を駈ける足音、荒い息遣いが奥から聞こえてくる。20分ほどしてからケニャ人が、なすすべもなく呆然と立ち尽くすままの自分たちの元に戻ってきた。彼に導かれて尾根にあたる場所にたどり着く。背部にマシェット（山刀）の一撃を食らった、幼獣ともいってよいヒゲイノシシが横たわっている。打ち込み傷から見える肉のピンク色が鮮やかだ。犬たちの追走に疲弊したところを一回で仕留めたという。体重は30～35キロほどだろうか。その日の遅い昼食から翌日の朝食まで多彩なイノシシ料理のご馳走に預かったのは言うまでもない。

S村では10年くらい前に州政府発効の伐採権を手にした大手伐採企業がブルドーザーや警察とともにやってきた。そうした伐採による開発には皮肉にも《持続可能な森林管理》を謳う森林認証というお墨付きまで与えられていた。隣接するプナン人コミュニティは組織して伐採道路の全面封鎖という快挙に打って出る。また、人権派弁護士やNGOのサポートを受けて法廷闘争も起こした。結果的にプナン人たちは伐採から自分たちの森を守ることができた。ただ、

その犠牲は少なくなかった。抗議運動のリーダー格の一人、K村の村長は、2007年10月、通い慣れた森に仕掛けた罠を見るために出かけたまま姿を消す。村の近くの川でほとんど原型をとどめない遺骨が見つかったのはその2ヶ月後。遺族は裁判に持ち込むが結局、犯罪性を認定させることはできなかった。村長のもとには、伐採企業のS社の社員が村のインフラ援助の話を持って足しげく通っていたという。

サラワクのプナン人はイギリスによる植民地支配、イスラム教、マレーシア国家、他のエスニック集団といった軋轢や収奪から生存をかけてひたすら森の奥地へと逃げてきた人たちである。かれらが選び取った生存戦略とは、自然に痕跡を残さない狩猟採集という誘導型のライフスタイルだ。一部のメンバーに権力を集中させず、争いや支配とは無縁な平等な社会を築き上げていった。そうした自然を基盤とした社会は資源が豊富な熱帯林という環境があってはじめて可能なのだ。《生物多様性の宝庫》、《地球の肺》といったお仕着せの言い方がかれらの前ではなんと空しく響くことか。ただ、こうした熱帯林もここサラワクでは、物凄い勢いでファルカタやアカシアなどの産業造林やアブラヤシ農園に取って代わっている。プナン人に襲い掛かっている脅威や圧力を自分のような外部者が肌で感じることは難しい。

原田　公（本会、理事
麻布大学生命・環境科学部）

自分が所属する学校の生徒だけで活動することはさほど難しくありませんが、複数の学校の生徒が継続的に参加するようにするには、会のみなさま、ご支援いただけるみなさまのお力があってのことだと考えています。ありがとうございます。

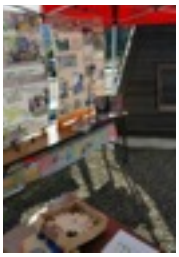
小金井環境フォーラムでも少人数の座談会も含め事例報告させていただきました。「生きる力」をキーワードにいまの若い世代に足りていないとされている力、そしてそれが森でどのように醸成されていくか、という視点で報告させていただきました。ここでは、定められている答えに行き着くわけではない、答えのない問題に取り組む、野外で活動し、協力し合うことで達成感、充実感を得られる、という環境教育の視点が、我々の森の活動だけでなく、小学校に図工の活動で参加している方、プレーパークという冒険遊び場をやられている方と共通し、いま求められる「生きる力」とは何かに答えが見え始めているような気がします。共催でもあった学芸大とも連携しながら、知足の森での活動を通して、その問題に向き合いたいと考えています。

宮村　連理（本会、副代表理事）

[事務局より]

小原本陣祭に参加しました

11月3日の小原本陣祭の大名行列、活動紹介展示にForestNovaが参加しました。写真でご紹介します。



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１８年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所